

令和3年度 学校評価 中間評価

川北町立橋小学校

	評価項目と具体的取組	担当	評価指標	達成度判断基準	備考	評価	取り組み状況	改善に向けて
I 組織的な学校運営	【学校教育ビジョンの具現化】 学校運営委員会や校務委員会と職員会議を密接に連携させ、学校教育ビジョンのもと、チーム学校を常に意識し、組織的主体的に学校運営に参画する。	総務部	【満足度指標】 学校教育ビジョンを意識しながら、それを実現すべく組織的主体的に学校運営に参画している	組織的主体的に学校運営に参画していると回答する職員の割合が A 90%以上 (あてはまるくどちらかの場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月12月 教員アンケート	B	「あてはまる」と「どちらかといえば」の回答を合計すると100%であった。しかし、「あてはまる」との回答と「どちらかといえば」の回答が同数であったので、B判定とした。学校経営方針(グランドデザイン)に沿った行事等の運営を行うため、目的やねらいをより明確化するようにした。	学力向上ロードマップを活用し、学校運営における分掌の役割と他の分掌とのかかわりの認識する。連携して組織的に業務に当たるようにする。学校評価計画と自己評価カードを関連させることを強く意識していく。
	【働き方改革】 業務の役割分担の適正化と組織的協働的な学校運営に努め、ワークライフバランスを大切にす。	総務部	【満足度指標】 職員は「ワークライフバランス」の大切にす、充実感を持って職務の遂行に努めている。	ワークライフバランスを大切にす、充実感を持って教育に当たっている。と回答する職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月12月 教員アンケート	B	「あてはまる」と「どちらかといえば」の回答を合計すると100%であった。判断基準においては、A判定であるが、課題として残っている時間外勤務時間は、昨年度を上回っているため、B判定とした(30時間と50時間)。備品や施設設備の充実の改善や運用、業務改善に資する予算執行、業務の標準化を意識して学校運営を行っている。	ワークライフバランスに配慮しながら、さらに充実感を持てるよう目的意識を明確に持った職務遂行になるようにする。分掌部会で、必要に応じて内容の精選を行う。運営委員会のありかたを再検討し、教育活動全体を見通す場としての機能を強化する。さらにSSSとの連携協調を進めていく。
II 確かな学力の育成	【学力向上】 単元のゴールやB規準の明確化、見通しの見える化を意識した授業づくり、朝学習における基礎的事項の習熟や活用の学習指導に努め、基礎的基本的学力の充実、活用の向上を図る。	教務部	【成果指標】 取組の結果、基礎学力が充実し、活用力が向上している。	国語・算数の単元テストの平均点が88点以上であった学年が A 全学年 B 5つの学年 C 4つの学年 D 3つの学年以下	7月12月2月 単元テストの平均	C	国語・算数の単元テストの平均点が88点以上であった学年が4つの学年だった。単元テスト漢字のテストや話す・聞くテストがよくなかったために全体の平均点が下がってしまった。	漢字の定着ができていないので、朝ばつちりの時間などで繰り返し練習を行っていく。また大事なことを落とさずに聞き取りメモを書くこともできていないので、授業の様々な場面でメモを取る場面を設定していく。また、学習内容を定着させるための授業改善をさらに進めていく。
	【ことばの力を磨いて学びに向かう子の育成】 児童が主体的・対話的に学ぶ学習活動を推進し、深い学びにつながる指導法の向上を図る。	教育推進部	【満足度指標】 主体的・対話的で深い学びに向かう授業づくりの取り組みを通して指導力が向上したと感している	学校研究の取り組みを通して指導力が向上したと感している教員の割合が A 100% B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	7月12月 教員アンケート	A	「児童が主体的対話的に学ぶ学校研究を実践することで、自身の指導力の向上につながっている」という項目に対して そう思う・・・36% だいたいそう思う・・・64% 合計100%であった。	肯定的な割合で見るとA評価となるが、「だいたいそう思う」の割合が高いので、「そう思う」の割合を高められるようにしていきたい。2学は学校研究の重点を「課題の焦点化」に絞り、単元構想シートの作成、授業交流に取り組んでいく。
	【読書の量の向上】 図書館司書と連携し、毎月おすすめの本の達成状況を知らせ、振り返ることで、主体的な読書活動に向けたしあかけの工夫を図る。	教務部 (図書担当)	【成果指標】 学年のおすすめの本を読むことが出来ている。 (1・2年20冊、3年15冊、4～6年10冊)	学年の「おすすめの本」を読み終えた児童の割合が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	おすすめの本の冊数 7月(2年7冊、1・3年5冊、4～6年4冊) 12月(1・2年14冊、3年10冊、4～6年7冊) 2月(1・2年20冊、3年15冊、4～6年10冊)	おすすめの本、児童の1学期のめあて達成状況は全校児童133人中116人で達成率は87.2%。教職員アンケートでは「おすすめの本の取り組みや図書利用について働きかけている」項目で そう思う・・・17%、だいたいそう思う・・・67%であった。 図書館司書による読書環境作り、教職員の働きかけの効果もあり、児童は進んで読書をし、よく図書館利用を行っている。しかしまだ一部、読書への関心が低い児童もいる。	おすすめの本、児童の1学期のめあて達成状況は全校児童133人中116人で達成率は87.2%。教職員アンケートでは「おすすめの本の取り組みや図書利用について働きかけている」項目で そう思う・・・17%、だいたいそう思う・・・67%であった。 図書館司書による読書環境作り、教職員の働きかけの効果もあり、児童は進んで読書をし、よく図書館利用を行っている。しかしまだ一部、読書への関心が低い児童もいる。	読書への関心の低い児童がおすすめの本を読んだり図書館利用をしたりするように、担任による声かけだけでなく、読書仲間や教師による読み聞かせ、図書委員による読み聞かせや楽しい企画も準備して多くの児童が読書意欲を高めるように働きかけていく。また、国語の授業とつなげた並行読書も充実させていく。
III 豊かな人間性の育成	【みんなが安心できる楽しい学校づくり】 情報共有により、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。いじめは小さな芽のうちに摘むと認識し、いじめを認知した時は組織的に迅速に対応する。	生徒指導部	【満足度指標】 児童が自己有用感を抱きながら、楽しく学校生活を送っている。	「学校は楽しい」と回答した児童が、 A 90%以上 (あてはまるくどちらかというあてはまるの場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月12月 児童アンケート	B	児童アンケートで、「学校は楽しい」と回答した児童の割合が、 そう思う・・・64% だいたいそう思う・・・23% あわせて87%だった。 ・5月末にいじめアンケートを行い、いじめの早期発見に努めた。 ・3機能を生かした授業づくりでは4月に内容の共通理解を図り、学期末に振り返った。 ・楽しい学校づくりのためにはげましグループ活動を行い、異学年間の交流を深めた。	継続していじめの未然防止、早期発見に努めていく。また、楽しい学校づくりにつながる取り組みを児童会中心に行っていく。 ・3機能を生かした授業づくりは振り返った内容を元に今後も取り組みを継続していく。
	【道徳教育の充実】 道徳の時間を要として、構造的な板書や発問、ふり返りの工夫をし、道徳教育の充実を図る。	教務部 (道徳教育推進)	【満足度指標】 自分の思いや考えをもち、友達と話し合うことができた」と感している児童の割合が、 A 90%以上 (いつもしたく時々の場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	「自分の思いや考えをもち、友達と話し合うことができた」と感している児童の割合が、 A 90%以上 (いつもしたく時々の場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月12月2月 道徳アンケート	A	「自分の思いや考えをもち、友達と話し合うことができた」と感している児童の割合が、 低学年・・・89% 中学年・・・94% 高学年・・・96% ・「学びのあしあと」の掲示を行い、道徳で学んだことを、日常生活や教科でもふり返り、実生活でも生かせるようにした。 ・重点目標や具体的な評価方法を教員で共有した。	・今後も教科書資料を効果的に用いて、構造的な板書になるよう工夫する。 ・ふり返りの時間を確保できるよう、タイムマネジメントしていく。 ・学年に応じてICTを活用する等、子どもたちが考えたいくなるような授業展開を工夫する。
	【児童の自主性・主体性の育成】 よりよい学校・学級づくりに、児童会や委員会、学級会活動、学校行事等に自主性・主体性をもって取り組める児童の育成に努める。	生徒指導部	【満足度指標】 児童会、委員会、学級活動等において、児童はよりよい学校・学級づくりに進んで取り組めたと感している。	よりよい校風づくりのために進んで取り組めたと感している児童の割合が、 A 90%以上 (あてはまるくどちらかというあてはまるの場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月12月 児童アンケート	B	児童アンケートでよりよい校風づくりのために進んで取り組めたと感している児童の割合が そう思う・・・57% だいたいそう思う・・・29% あわせて86%だった。 ・あいさつ運動をはじめ各委員会が児童主体で考えた企画を行っている。 ・各学級で学級会を開き、目指す姿、授業について話し合い、実践したり、振り返ったりした。	それぞれの委員会で児童が主体的に活動を行い、振り返りをする。また、達成感を自覚できるよう教職員全体で児童を認める場を増やしていく。 ・学級会などを開き、目指す姿、授業について振り返りを行っていく。
IV 健やかな体の育成	【体力の向上】 体育の授業や児童の活動を主とした「体力作り1校1プラン」、「スポチャレ」の取組を通して体力の向上を図る。	保健安全 ・体育部	【成果指標】 11月でのミニ体力テストにおいて長座体前屈の記録が5月の記録を上回る。	11月でのミニ体力テストにおいて長座体前屈の記録が5月の記録を上回る児童(4～6年生)が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 60%未満	11月 ミニ体力テスト		体育委員会の取り組みとして、ストレッチ週間を設け、児童の柔軟性への意識付けを行った。体育の授業時には、柔軟体操を取り入れた。	11月に行われるミニ体力テストに向けて、引き続き1校1プランの取り組みを行う。また、教師や児童への呼びかけもしていく。
	【心身の健康】 心身ともに健康で元気に学校生活を送るために、スクールカウンセラー等の外部機関とも連携して、児童の自己肯定感を高める取り組みの充実を図る。	保健安全 ・体育部	【満足度指標】 心身の健康に関する授業を通して、自他の良さに気づき、心身ともに健康で、元気に学校生活を送っている。	「自分にはよいところがある」と感している児童の割合が、 A 90%以上 (あてはまるくどちらかの場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 60%以上	7月12月 児童アンケート	C	児童アンケートで「自分にはよいところがある」と感している児童の割合が、 そう思う44%、だいたいそう思う35%、あわせて79%だった。 SCをゲストティーチャーとして、エンカウンターやコグトレ、対人関係スキルの授業を全学年で実施した。	・アンケートの結果から、高学年を中心にSCをゲストティーチャーとして自己肯定感の向上につながるような授業を実施する。 ・行事等を通して、各学級や異学年の児童同士の良いところみつけをするなど、お互いの良さを認め合う活動を行う。 ・11月の人権週間や保健目標、12月の生活目標と関連させ、委員会の企画や、保健だよりでの啓発、掲示等の指導を行う。
V 家庭・地域との連携	【キャリア教育の推進】 優れた芸術文化や働く人の生き方にふれる特別授業を企画し、生き方にふれることで夢や目標を育んでいき、地域を誇りに思える児童を育てる。	教務部	【満足度指標】 優れた芸術文化や働く人の生き方にふれる特別授業や各教科におけるGTとの授業や地域の方とのふれ合い、地域のよさを知る機会を通して児童が学びを深め夢や目標をもっている。	特設授業やGTとの学習で地域の方とのふれ合い、地域のよさを知る機会を通して将来の夢や目標を持てたと感じた児童の割合が A 95%以上 (あてはまるくどちらかの場合はB) B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	7月12月 児童アンケート	A	総合的な学習での聞き取りなどから「まちの先生との学習で将来の夢や目標を持てた」と感じた児童の割合が96%だった。 あてはまる73%、どちらかというあてはまる23%あてはまるの方が多いため、評価はAとした。	コロナウイルス対応の為、外部の方に来ていただき特別授業をする機会が少なくなりましたが、こちらから出かけて行って聞き取りをするなど機会をとらえて地域の方との学習を行った。今後もコロナの感染状況を見ながら、機会をとらえて地域の方から学ぶことを続けていきたい。
	【社会性の育成】 社会性を身につけた児童を地域ぐるみで育成するため、あいさつを重点に、家庭・地域との連携を図り、身近な人へ進んで明るいあいさつができる児童を育てる。	生徒指導部	【満足度指標】 家庭・地域や学校で、児童は進んで明るいあいさつができている。	進んで明るいあいさつをしていると回答した児童の割合が、 A 90%以上 (あてはまるくどちらかの場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月12月 児童アンケート	B	児童アンケートで進んで明るいあいさつをしていると回答した児童が、 そう思う・・・61% だいたいそう思う・・・23% あわせて84%だった。 児童会によるあいさつ運動、児童会企画であいさつの取り組みを行った。	児童会中心となってあいさつのよさを感じる取り組みを継続し、児童があいさつがよくなってきたと自覚できるように掲示板などを使って発信していく。